

■ 令和3年度 第10回 秋葉区自治協議会

日時：令和4年3月18日（金）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（金子会長）

皆さん、こんにちは。年度末になりましたが、急遽、連続して2回開催ということですけれども、皆さん、本当にお忙しいところ恐縮ですが、ぜひともよろしくお願ひします。

では、最初の開会のあいさつを、本日は第2部会の佐藤喜代一委員にお願いいたします。

（佐藤委員）

皆さん、こんにちは。お久しぶりでございます。コロナだけではなくて、世界中ではウクライナへのロシアの侵攻や、一昨日の大きな地震といった、人間がかかわらないところでも、自然災害とかそういう以外でも何かいろいろな変化がございました。私も、特にロシアのウクライナ侵攻でしょうか、国連があっても何もできないなみたいな落胆の気持ちばかりで、何かできることはないのかと考えていましたが、なかなかないですね。そこでちょうど金子会長のフェイスブックを少し見ましたら、やはり金子会長も頭を悩ませているというような文言が書いてありました。そして、その中で、あまり躊躇なくできるようなことということで、1つの提案もありました。そのようなことを見てほっとしながらも、私もそういうことだったらできそうだなと、1つヒントを得たような気がいたしました。

これまでの自治協議会を振り返ってみますと、委員の方々がそれぞれもっていらっしゃる経験や知識、それから専門性をいろいろと出し合って、良い方向に、良いアイデアを出してきた秋葉区の自治協議会ということを思い出しました。

きっとそれは、各委員の熱意であり、もっている知識であり、それから経験であり、そういうものがたくさん貯まっているのではないかと、そしてなおかつそれを自由に出せるような雰囲気のある会議なのではないかということを感じたわけでありまして。今日も、きっとそのような感じで会議が進むのではないかと期待しておりますので、皆さんの忌憚のない良いアイデアを出し合える会にさせていただきたいと思ひますが、よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

佐藤委員、ありがとうございました。本日、市長もお見えになるということで、その前に1つ議題がございます。そちらをてきぱきと進めて、市長をお迎えして、またそこで活発な意見交換ができればと思っております。円滑な議事進行にご協力をお願いしたいと思います。

本日、FM新津、新潟日報から取材の許可依頼ということでいただいておりますが、写真撮影、録画、録音などを許可してよいかお諮りしたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。異議ないようですので、許可することにいたします。

2 議事

(1) 「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」報告書について

(金子会長)

それでは、議題に入らせていただきます。まず、次第の1番『秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査』報告書について、私からご報告をさせていただきたいと思えます。

本当におかげさまで、このようになかなかたいそうなボリュームの調査報告書を完成することができました。すでに本会議で2回ほど皆様からお目通しいただいて、それをもとに幸福度調査部会で議論を重ねまして、細かいところをいくつか修正したうえでこのような形としてまとめたものでございます。改めての細かい説明は、今日はしなくてもいいのかなと思っております。

すでに区ビジョンとか自治協の提案事業のワークショップなどの際に、ある程度結果が出ておりましたので、そちらでもご覧いただいたうえで、来年度、これをフル活用した秋葉区自治協議会と、それから秋葉区、そして新潟市の施策というものへとつなげていけたら最高ではないかと思っております。ぜひとももう1度この力作をお目通しいただいて、頭のどこかに置いて日々行動いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

1点、大きな変更点としておことわりすることがあるとすれば、表題を少し変えさせていただきました。表紙に「令和3年度(2021年度)秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査(秋葉区民幸福度調査)」と書いてありますが、正式な自治協議会としての事業名が「秋葉区民幸福度調査」でしたので、「幸福度調査」を大きく最初に出してしまし

た。誰が読むのかと考えたときに、この「暮らしやすさに関する意識調査」というものを方々にご協力いただいて、そちらの名称のほうが世間一般に出ているという形になっているものですから、読者の視点に立ったというところで「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」というものを大きく前に出させていただいたということでございます。

この幸福度調査の報告書は、本日はご報告のみということで、ぜひともじっくりと見ていただき、生データや集計結果が1つのエクセルのファイルで存在しております。こちらは、本当にこの先、今この報告書に記載されている以外にもさまざまな分析が可能です。皆様のお立場からこういう分析も見てみたいのだけれどもみたいなことがありましたら、声を出していただきたいと思いますし、そのデータを皆様にもお渡しします。何かそれぞれのご関心の向きからさらなる分析をしていただき、それぞれの組織の中で活かしていただければと思っております。その点も1つお願いをしまして、報告はこのような形で代えさせていただきたいと思っております。

この幸福度調査に基づいて、実はもう1つ自治協議会としての仕事が残っておりまして、それが、もう1つ配らせていただいている「提言書(案)」という資料です。こちらは、25日の本会議での正式採択としたいと思うのですが、少しでも皆様に中身を読んでもらいたく、本日資料として用意しました。宛名が「新潟市長(秋葉区長)殿」となっておりますが、これは、もちろん市長宛には「新潟市長殿」、秋葉区長には「秋葉区長殿」という個別に2種類の表題を用意して、それぞれに提出したいと思っております。

内容についても、幸福度調査部会で、市長、あるいは区長に提出する提言書の中身にどのようなものを盛り込んだらいいかという議論をして、さまざまなご意見をいただいたものを、私が1つの文章に作文させていただいたものになります。これは部会メンバーだけではなく、ぜひ皆様にも読んでいただき、何かお気づきの点、大事なことだけでも触れられていない点とか、その辺をできれば早目に、気がついた時点で早目に、それこそできれば来週前半くらいまでに、事務局にご意見をいただければ、また次回、25日までの間に反映できるかなと思っております。

簡単に骨格の部分だけ、どのような提言を盛り込んだかということだけを簡単にお話しさせていただきます。まず1つ目は、何と言っても就きたい仕事に就けないという現状が調査の結果から色濃く見えてきたということで、やはり秋葉区に相応しいような、秋葉区の強みをしっかりと活かしたような、そういう仕事をもってくる、あるいはそういう仕事で起業する人たちをもっと増やして、地域のことを意識しながら幸せに働けるような環境を整えることが大事ではないか。その中には特産であるプチベールやもち麦

を単語として盛り込ませていただきました。

2番目として、調査結果の中で気になったのが、困ったときの助け合いが実感できていない層がかなりいるというところがあり、できているという人が31パーセントしかいなかったということです。「思わない」、「どちらとも言えない」というところが多くを占めていまして、その部分を何とかしたいということです。秋葉区自体、高齢化率は新潟8区の中でもトップのほうにきておりますし、これから増々人口減少、高齢化となり、助け合いが必要な時代がやってきているというところで、ぜひ支え合いを実感できるような、そういう区民の意識の変革を行政からも後押ししていただきたいというところを盛り込んでおります。

3番目です。子育て世代、若い世代が住む場所として秋葉区を選んでくれるような、そういう環境づくりというものが必要であるというところも実感したところです。若い世代のトレンドを示した調査結果がいろいろとあるのですけれども、子育てとか教育に関して相談できる機会が整っていると思う人が35パーセントしかいないという点であったり、安心して子どもを産み育てられるとか、子どもたちが生き生きと育つ環境があるというところは、本当に半分くらいしか満足度が及んでいないので、やはりもう少しあるといいというところですよ。中学生、更に若い世代は、秋葉区に愛着を感じつつ、社会のために役立ちたいなどという意識をもっている子は多いのですが、役立ちたいと思うのだけれども、33パーセントが何をしたらいいか分からない。若い人たちの活躍の場がしっかりつくれていないのかなという点も、併せて気になる点でございまして、やはりこの先、人口バランスを整えていくうえで、そういったところの意識がしっかり育っていくところが重要なのかなと思っておりました。子育て世代を選んでくれるようなまち、その中には児童館とか公園とか、そういう皆様からお声があった部分の整備をお願いしました。それから、皆さんの関心が高かった地域教育コーディネーターの人選について、女性や若い世代の起用をお願いするような、そういう提言を盛り込ませていただきました。

4番目が、人にやさしい生活インフラの整備ということで、概ね暮らしやすくして便利なまちだという意見が多かったのですけれども、見過ごせないのは歩道が整備されていない道路が多いという、従来より皆様からお声が出ていた部分なのかなと思います。やはり人にやさしい生活インフラの整備がどうしても気になる部分で、そこを盛り込ませていただいたものです。併せて、きちんと住める家があるのに活用されていない、使えるお店があるのに活用されていないといったところも併せてやさしいインフラの中に溶け込んだようなまちができればいいというところを盛り込ませていただいています。

5番目、文化芸術に親しむソフトの強化です。これも調査結果でかなり顕著に表れてきた部分です。施設はある程度整備されているし、ほとんどの人が使ったことがあるという結果なのですが、文化や芸術に親しむ機会があるかというところの数値が非常に低かったのです。対照的な結果が出ていまして、つまりはそういう機会を創出するようなソフトの部分の部分が足りないのではないかということです。そういうところに民間のアイデアや行動力、そのようなものを合わせて、連携をとりながら充実させていってほしいという、そういう提言が5番目になります。

6番目、災害に備えた行動を促すということで、避難場所や避難情報は意識して取り入れている方が多い一方で、避難訓練に参加している、日頃から身の回りの人たちと災害に備えて何か話し合いをしているかという数値が、対照的に低いという結果がありました。そのようなところを促すような施策、特にきらめきサポートプロジェクトの中で、今年度「イザ！カエルキャラバン！」というイベントをやらせていただき、それが大成功したわけです。そのように、気軽に家族で参加できるような場のつくり方、そのような工夫も含めて、ぜひ充実させていってほしいということを書かせていただきました。

最後、7番目なのですが、この幸福度調査は、今回52項目にも渡って調査をしたわけです。その中でさまざまな角度から分析をした結果、幸せを感じている人は多く、住みよいと思っている人もいるし、愛着を感じている人もいます。しかし、さまざまな観点でクロス集計をしてみますと、それらが必ずしも連動しているとは言えないという現状が見えてきました。これは、多様な視点から分析をした結果分かったことで、そのような評価の仕方がかなり重要なのではないかとこのころに気づいたところでもあります。行政の施策というのは、大体施策ごとにその施策に関するデータだけで行うということが多いのではないかと思うのですけれども、いろいろな角度から見て本当に市民とか区民の幸せにつながっているかどうか、そういう観点を評価の基本的な目標として取り入れたらどうかという、まさに幸福度調査をやったからこそ見えてきた提言ではないかと思ひ、それを最後に入れさせていただいております。

駆け足でしたが、このような内容の提言書の案をまとめさせていただきました。市長がいらっしゃるまで少しお時間があるので、もし何かお気づきの点がありましたら、ご意見等、ご質問等をちょうだいできればと思いますが、いかがでしょうか。

私もまだ目が届いていない部分もあるのではないかとはい思いますので、年度末のお忙しい中とは思いますが、本当に皆様のおかげで、自治協議会からの提言という、私が今の会長の役割を担わせていただいてから初めて提言書という形でまとめることができました。ぜひともお読みいただき、お気づきの点がありましたら、事務局まで早目

にお知らせいただければと思いますので、よろしくお願いします。

特にないようでしたら、これで次第1番の『秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査』報告書について」を終わらせていただきたいと思います。

では、間もなく市長がご到着だと思しますので、このままお待ちしたいと思います。少々お待ちください。

(伊藤(直)委員)

この提言書なのですけれども、まちづくりとの関連という部分が少し弱いのではないかと。ざっと目を通しただけなので、書かれているのかもしれないし。若い人たちの幸福度の4指標に対する満足度、これは相対的に他の世代にくらべると低いということで、なぜそうなのか。なぜ若い人たちが我が秋葉区に対してあまり魅力を感じていないという感じなのか。この幸福度関連の4指標に対する満足度が低いというのはなぜなのか。皆さんから少し話をしていただければいいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(金子会長)

今非常に重要なところをご指摘いただいたと思います。これは、我々の不断の努力として常に頭に置いて話し合っていきたいと思えます。また、今年も新年度にワークショップをやったりという機会があるかと思えますし、何かそれに関連するような議題も次々と出てくると思えますので、そのようなところで、この幸福調査の結果も思い出したりしながら、なぜなのかと。実は、本当の理由はアンケートからだあまり分からないのですよね。実を言うと。もう少し質的な調査も必要になってくる部分なのかとは思っています。必要に応じてそのようなことも検討してもいいかなと考えておりますので、なぜなのかという議論、本当にまさにこれからすべきところなのかと思っております。

(2) 市長との懇談会「令和4年度新潟市の取り組み」

(金子会長)

では、市長がお着きになりました。中原市長、本日はご出席いただきまして、誠にありがとうございます。しかも秋葉区のユニフォームに身を包んでのご登場、感激しております。とてもよくお似合いです。

それでは、市長がいらっしゃいましたので、本日の次第2です。ただいまから市長と区自治協議会委員との懇談会を始めさせていただきます。まず、中原市長より「令和4年度新潟市の取り組み」についてご説明をいただきます。その後、秋葉区自治協議会の活動も簡単に私と副会長の大貫委員からご報告をさせていただき、その後に委員の皆さん

との意見交換という順番で進めさせていただきたいと思います。概ね1時間でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日のこの意見交換なのですが、区自治協議会委員との懇談の場であるということから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。

それでは、市長、ご説明からよろしくお願いいたします。

(中原市長)

皆さん、こんにちは。今日は、自治協議会のお時間を割きまして、説明の機会をいただきまして、大変ありがとうございます。自治協議会委員の皆様におかれましては、地域の協働の要として、日頃から地域課題の解決に大変ご尽力いただいていること、心から感謝申し上げたいと思います。

まず、新型コロナウイルス感染症が3年目を迎えます。先般、まん延防止等重点措置が解除された後も、新規感染者は残念ながら高止まりを続けておりまして、皆様からは、引き続き感染拡大防止にご協力をお願いしたいと思います。

本日は、2月17日から市議会で審議をいただいております「令和4年度当初予算案」について簡単に説明させていただき、ただし区づくり予算については自治協議会の皆様に区から説明済みであるとお聞きしておりますので、今回、私からは省かせていただきます。また、本市の総合計画である「にいがた未来ビジョン」が令和4年度で最終年度となりますので、次期総合計画策定に向けた取組みについても一言触れさせていただきます。

それでは、少し飛びまして4ページをお願いします。4月から始まります新潟市新年度の予算の力点です。現在、市政の最優先課題は、新型コロナウイルス感染症から市民の命と健康と守り、そして一日も早く平穏な日常を回復させることです。そのため、「感染拡大防止対策」と「経済社会活動の再興」の取組みを両輪で進めていかなければなりません。また、全国的に人口減少、少子高齢化が進んでおり、本市も、実は令和2年度の国勢調査では、前回調査から約2万人の人口減少となっております。最重要課題として「人口減少時代に適応した持続可能なまちづくり」を実現することに今後も注力してまいります。こうした点を、当初予算編成の力点に置いております。

次のページ、スライドの5ページをお願いします。令和4年度当初予算の規模としては、前年度との比較で58.5億円、1.5パーセント増の、総額3,924億円余となります。感染拡大防止対策と経済社会活動の再興に向けた取組みについては、感染の状況を踏まえ、今年度の12月及び今年の2月に補正予算として約136億円を計上していますので、本当初予算と一体的に対策を講じていきたいと考えております。そのほか、「にいがた

2キロ」に関する取組みが28億円、衛生費が324億円、総務費が418億円、普通建設事業費が331億円となっております。

次のスライドをお願いします。持続可能なまちづくりを進めるためには、何より強固な財政基盤を確立することが必要です。強固な財政基盤なくして十分な行政サービスも投資も行うことはできません。新潟市は、令和元年から3年間、集中改革プランに基づく行財政改革を進め、財政基盤の確立に努めてまいりました。その改革を進めてきた効果は、58億円余りとなりました。この効果額を、こども医療費通院助成の拡大といった子育て施策の充実や、企業誘致、産業のDX推進など、重要課題などに活用することができました。財政については、収支均衡した予算を堅持でき、貯金にあたります基金残高については、私が市長就任時の33億円から、当面の目標としておりました88億円を超え、100億円台となる見通しです。借金にあたります債残高については、今年度末で3,802億円となる見込みであり、投資的経費の厳正な事業選択による縮減を図り、2026年には3,355億円まで減らしていく推計としております。この3年間で行財政改革につきましては一定の成果を出すことができつつあると考えております。

今後の大きな課題としては、財産経営のさらなる推進ということです。ご承知のように、合併によって新潟市の公共施設の面積が大変多くなっており、その維持管理に多額の費用を要しております。そこで、財産経営推進計画をこの度改定いたしまして、基本方針としては「サービス機能をできる限り維持しながら、市のもっております施設の総量を削減する」ということを掲げております。次世代の市民が安心・安全に利用できる施設となるよう、最適化を進めてまいります。来年度以降、地域の皆様とていねいな対話を重ねながら、市・区単位など利用圏域の広い施設の再編や、地域密着施設の中学校区単位ごとの再編を段階的に進めてまいります。

10 ページをお願いします。これは、現在の感染状況です。令和2年2月29日に初めて感染者が確認されましたけれども、2年経ちまして第6波に入った現在は、感染力の強いオミクロン株によりまして、今年に入って、一番右の棒グラフですけれども、急激に感染が爆発しております。1月は1か月で4,200人超の感染者、2月は6,000人超の感染者が確認され、過去最多の感染となっております。現在は、10歳未満の子どもの感染が特に多くなっておりまして、各学校ですとか放課後児童クラブなどでの感染対策に取り組んでいるのですが、どうしても子どもたちが密になりやすいということで、感染が広がりやすい状況になっております。各それぞれのご家庭で感染になって、学校では感染者が出れば学級閉鎖をしているというような状況でございます。一方、感染リスクの高い高齢者施設については、感染確認が相次ぎましたけれども、疫学調査やワクチン

の3回目の接種などが効いてきているのではないかと思います。現在は落ち着き始めております。

次のページをお願いします。新潟市では、昨年の12月から、まずは医療従事者から3回目の接種を開始しておりますが、現在は市民の皆様から個別医療機関での個別接種、それから集団接種会場で接種をしていただいております。3月上旬にすべての年代で6か月前に接種券をお届けしておりますので、市民の皆様からは、接種券が届き次第予約をお願いしたいと思っております。現在、3回目の接種率は、3月15日時点で36.5パーセントとなっております。

13ページをお願いします。新年度につきましても、ワクチンの3回目接種の集団接種会場の運営などの体制を整えていきます。また、医療機関で行うPCR検査を引き続き支援するなど、医療提供体制の安定を図ります。さらに不安を抱える妊婦の方や基礎疾患を有する妊婦が希望する場合、分娩前にPCR等のウイルス検査を受ける際の費用を補助させていただきます。

15ページをお願いします。新年度からの経済社会活動の再興に向けては、地域のお店を応援するとともに消費を喚起する必要がありますので、「地域のお店応援商品券」の第3弾を発行するほか、公共交通も大変打撃を受けている状況でありますので、未来に向けて公共交通利用を回復、増加するために、バスやタクシー利用者のすそ野を広げていきたいと思っております。また、令和2年度に実施しまして大変好評でありました。市内農水産物の発送の際に送料を全額負担する「にいがた贈ろう！農水産物産地直送支援事業」を拡充いたしまして、需要の喚起や消費の拡大につなげていきたいと思っております。さらに観光について、感染が途切れることなく続いておりまして、その感染の状況を我々も見据えているのですけれども、なかなか思うようにタイミングをつかむことができないというのが正直なところです。引き続きマイクロツーリズムやオンライン活用など、新しい観光スタイルを推進してまいります。

次のページをお願いします。当初予算編成のもう1つのポイントであります「選ばれる都市新潟市」の実現に向けた取組みについてです。昨年2月に、私が「選ばれる都市新潟市」というまちづくりの方向性やビジョンを公表させていただきました。これは、本市の新しい未来を切り拓くため、「ウィズコロナ・ポストコロナ時代のまちづくり」について取りまとめ、記したものです。「選ばれる都市新潟市」を、「暮らしやすいまち」、「訪れたいまち」、「ビジネスを展開するまち」の三つの分野に分けて、新潟市が選ばれる都市となるための新年度の主な取組みをご説明させていただきます。

次のページをお願いします。まず「暮らしやすいまち」の分野においては、安心して

子どもを産み育てられるまちに向けて、結婚・出産・子育て期の切れ目ない支援として、市内の企業や店舗の皆様からご協力をいただきまして、結婚を応援する機運醸成や結婚に伴う新生活の支援などを行うことによって、出会いや結婚を支援していきたいと思っています。また、ご家庭でさまざまな課題をおもちでありますけれども、課題を抱えるご家庭を包括的に支援する子ども家庭総合支援拠点を設置するとともに、各家庭の状況をお聞きし、相談にきめ細かく応じる保育コンサルジュを各区に設置いたします。また、こども医療費通院助成の拡充を継続するとともに、企業の皆様からご協力をいただきました「にいがたっすこやかパスポート」の広域連携を拡大し、子育て家庭へ支援を行ってまいります。さらにワーク・ライフ・バランスの推進に向けては、男性の家庭生活への参画を後押ししてまいります。

次のページをお願いします。子どもたちが学ぶ教育環境の充実については、学習プログラムの充実に向け新たなプログラムを開発し、若者の食と農への関心と地域への誇りと愛着を育みます。一人1台端末の整備も終わりました、ギガスクール構想の推進に向けては、運営支援センターを整備開設し学校への支援をワンストップで担うとともに、ICT支援員を学校に配置して学校の先生方や児童生徒の子どもたちにICT機器の活用を応援していきます。また、地域とともにある学校づくりを目指し、保護者や地域住民が学校運営に参画するコミュニティ・スクールを全校で実施いたします。

次のページをお願いします。「暮らしやすいまち」の分野につきましては、地域共生型のまちづくりや災害に強いまちづくりについて、健康長寿社会の実現に向けて認知症予防のための補聴器購入費の助成を行います。これは、初めてであります。誰もが安心して暮らせる環境づくりとして、特別な支援が必要な子どもたち一人一人のニーズと課題に対応する体制を強化し、障がい者理解の推進や学校生活に置いて医療的なケアが必要な子どもの支援体制を充実するなど、就学前から社会参加まで一体的な支援を展開していきます。

次に、災害に強いまちづくりに向けてです。3月16日の夜に福島沖を震源とする地震が発生しまして、死亡された方、また負傷された方、多数出しておりますけれども、東北新幹線の脱線などの被害が生じました。津波は注意報が発令されたものの、幸い被害は少なかったようです。こうしたいつ起こるか分からない災害に対して、日頃の備えが非常に重要であると改めて感じております。新潟市としましては、自主防災組織の結成・活動を支援し、地域における防災活動の活性化を図るほか、平成29年度に新たに津波浸水想定区域となった地域への防災行政無線の整備を完了させます。

次のページをお願いします。「訪れたいまち」の分野では、日本海拠点都市としてふ

さわしい都市機能の強化として、新潟都心地域が都市再生緊急整備地域に指定されましたので、都市機能の更新と充実に向けた都心の再整備を推進します。また、新潟駅が60年ぶりにリニューアルを目指しているわけですが、ようやく新しい姿を現し、今年6月には在来線の全線高架化が完了いたします。また、駅の真下にバスターミナルが移動しまして、駅直下バスターミナルや万代広場といった駅周辺整備を着実に進めてまいります。先ほど申し上げました観光需要の回復ということについては、感染状況を見極めつつ観光資源の魅力向上や誘客・誘致活動を推進するほか、新潟駅の観光案内センターを新しく令和6年はじめの供用を目指し整備を進めてまいります。

次のページをお願いします。「ビジネスを展開するまち」の取組みについてです。成長分野のイノベーション推進に向け、生産性向上に加えて脱炭素かに役立つ設備投資への支援により、中小企業者への競争力強化を図っていきます。また、企業の成長段階に応じたきめ細かな支援に向け、中小企業者の皆様の新事業展開や新事業の再構築への取組みを後押しするとともに、円滑な事業承継を進めていきます。

次のページをお願いします。22 ページです。戦略的な企業立地の促進に向け、企業立地ビジョンを策定するとともに、首都圏をはじめとした市外企業の立地を促進します。また、新たな工業用地をはじめとした立地の促進と雇用機会の増大を図るために、進出する企業の用地取得費などの一部を助成するとともに、助成対象についても拡大します。持続可能な農業の推進に向けては、農業用ハウスや果樹棚といった農業用施設を承継する農業者への支援を新に行いたいと思います。また、本市が先進的に取り組んでおりますスマート農業の導入支援や園芸産地の維持拡大への支援を引き続き行っていきます。

次のページをお願いします。都心のまちづくりについては、先ほど申し上げましたように、新潟駅が60年ぶりにリニューアルするなど、新潟駅周辺整備事業、新潟市の一大プロジェクトとして着実に整備を進めておりますけれども、まちづくりの大きな転換期にあると思っております。この大きな変動を新潟市の活性化に取り組むには絶好の機会と捉え、まちづくりのビジョン「選ばれる都市新潟市」を公表しました。この新潟駅から万代・古町をつなぐ都心エリアに「にいがた2km」と呼び名をつけまして、今後まちづくりを進めるとともに魅力をよりアピールし、その価値を一層高めていきたいと考えております。また、「にいがた2km」で生み出される活力といったものを、8区全域に波及させていきたいと考えております。

そこで、24 ページ、「にいがた2km」の覚醒につきましては、都心のまちづくり推進本部においてまちづくりの基本方針や推進項目を整理いたしました。都心エリアを「緑あふれ、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリア」にし、8区のネットワーク強

化を図りながら「本市経済・産業の発展を牽引する成長エンジン」としていくことといたしました。その実現に向けて、基本方針として三本の柱を掲げております。その柱のもとに、それぞれいくつかの事業を整理しておりますけれども、本日は時間の関係で説明を省かせていただきます。

最後に、36 ページをおめくりいただけますか。次期総合計画ですけれども、2023 年から 2030 年における新しい次期総合計画の策定を現在進めております。皆様から、新潟市の 10 年先を想像し、こんなまちになったらいいな、こんな暮らしやすいまちにしたいという思いをいただきまして形にしていきたいと考えております。今年度は、さまざまな形で将来の新潟市についてそれぞれご意見をお聞かせいただきました。各区の自治協議会委員の皆様からは、目指す区の姿についてご議論いただきまして、基調なご意見をいただいたところでもあります。誠にありがとうございました。このほか、定量的なご意見もお聞きするため、市民から無作為抽出による市民アンケート調査や団体の皆様を対象とした団体アンケートなどにより、幅広くご意見をいただいております。

次のページをお願いします。最後に、今後の策定スケジュールについてですが、今年度お聞かせいただいている市民や団体の皆様のご意見をもとに、今年度の4月を目途に、計画のもととなる素案を策定いたします。6月以降には、素案をもとに有識者の皆様からご審議をいただくとともに、パブリックコメントなどを経て成案を策定したいと考えております。12月には、その成案を市議会へ提案し、議決をいただくことになっております。そして年明けころからは冊子が完成し、令和5年の4月から次期総合計画がスタートというスケジュールで動いてまいりたいと考えております。

以上、大変一部の説明となりますけれども、また駆け足となりましたけれども、新年度の取組み、また次期総合計画について、若干ご説明をさせていただきました。新年度においても、明るい未来を切り拓き、選ばれる新潟市の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと思いますので、自治協議会の皆様から今後ともご指導とご支援賜りますようお願いを申し上げ、説明に代えさせていただきます。ご静聴、大変ありがとうございました。

(金子会長)

中原市長、ありがとうございました。引き続きということで恐縮ですが、私と大貫副会長から、秋葉区自治協議会の本年度の活動について、概略をご説明させていただきたいと思います。お手元に秋葉区自治協議会のかわら版「あきはくはつものがたり」というカラー刷りのものがあるかと思っております。こちらは、3月20日発行ですので、明後日発行予定のもので、まさに出来立てほやほやというところですが、そちら

が1年間の総括ということで非常によくまとまっておりますので、それをもとにご説明をさせていただきます。

秋葉区の自治協議会は、常設の部会が四つございまして、第1部会から第3部会、それから広報部会という、この四つで構成されています。ところが今年度は、そこに収まらない特別な事業もやってみようということで、「幸福度調査部会」というものと「ひな・お宝巡り部会」という、これらを合わせまして合計6つの部会で今年度は活動を続けてまいりました。まず、その幸福度調査というものについてご紹介させていただきます。

こちらは、先日のスマイルトークでもご紹介させていただいたものになりますけれども、概略がこちらの「あきはくはつものがたり」の中にも紹介しております。約7割が秋葉区は住みよいと感じている、約6割が愛着があると感じているというデータがございます。もう少し頑張りたいところですが、概ね住みよくて愛着があるとは感じていらっしゃるのかなということです。住みよい理由としては、災害が少ないとか交通上の利便性、買物や食事に便利、自然豊かであるなど、秋葉区らしい項目が並んでおります。残念な点として、働く場所を見つけづらいという、秋葉区に仕事が見つかりやすく就業しやすい環境があると思う人が12パーセントしかいないという現実も見えてまいりました。その辺は、ぜひとも官民の連携が必要だと思っておりますが、秋葉区らしい仕事の創出というものを進めていく必要があるのかなというところがございます。高い環境意識というものが実は1つの特徴かなと思ひまして、約9割が日頃から環境に配慮した生活をしているという、これも1つの大きな秋葉区の特徴と言えるのではないかと思います。その辺のところをよく活かしたうえで仕事づくりというのでしょうか、特色ある環境ビジネスといったものを中心に強化していくといいのかなというところも少し伺ってきたところです。

幸福度調査と私どもでは呼んでいるわけですが、結果として8割以上が幸せを感じているということがデータとして示されました。中学生対象にも別の調査を同時にやっております、中学生もほぼそのくらいです。8割以上が幸せを感じていると。その辺のところは非常にほっとしたところなのですが、これを男女別ですとか年代別ですとか居住地区別ですとか、さまざまな指標でクロス集計をしました結果、幸せであるということは、必ずしも住み続けたいとか愛着をもっているというところに連動していないという点もはっきりと見えてきたところがございます。その点は、何かもう少し工夫のしようがあるはずですし、何かしら秋葉区という土地に住む幸せというもの、分かりやすく、見えやすくしていく必要があるのかなとも感じているところです。

それから、幸せではあるのですけれども、実はその地域の中の助け合い、こちらのか
わら版では紹介していないのですが、助け合いとか支え合いの部分をあまり実感できて
いないという状況も垣間見えてまいりました。そのようなところは、地域と幸せと住み
続けたいと愛着と助け合いですね、この辺のところがかきちんとリンクされるような、何
か手立てを講じていく必要があるのかなと思っています。

こちらのかわら版では、本当にこういう簡単な結果しかご報告していないのですけれ
ども、その他さまざまな、合計 52 項目に渡って調査をさせていただいております。そ
こから見えてきたものを、現在、市長への提言書として取りまとめさせていただいて
いるところです。来週開かれます、この自治協議会の本会議を開く予定になっているの
ですけれども、そこで採択したものを年度内にお届けしたいと思っておりますので、お目
通しいただきましたら幸いです。以上が、幸福度調査部会ということになります。

1 ページめくっていただきまして、第 1 部会からの活動報告です。第 1 部会は、例年
「きらめきサポートプロジェクト」と言いまして、秋葉区にあります民間の団体と秋葉
区自治協議会が協働で取り組めるプロジェクトを公募して、そこに予算をつけて一緒に
やっていくというスタイルの事業となっております。今年度採択させていただいたもの
は四つの事業、「アキハフジンロックフェスティバル」、フジロックではなくてフジンロ
ックフェスティバルです。女性の方が中心になったロックフェスティバルをオンライン
で開催させていただきました。「田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業」、「クマ・イノシ
シなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり」をテーマにした事業、「楽しみな
がら防災を学ぶ『イザ！カエルキャラバン！』を秋葉区で開催する」、防災イベントを
家族で楽しみながら防災を体験できるというイベントもさせていただきました。本当に
例年非常に大きな成果を上げている事業でして、来年度も引き続き市民の中から市民の
活力を活かしたうえで秋葉区自治協議会とともに取り組む、そのような事業を開拓して
いきたいと思っています。

第 2 部会は公共交通について継続的に方策を模索し実行している部会活動になってお
ります。今年度は満日地区をモデル地域として、公共の足に困っている方々をどうすれ
ば便利にお過ごしいただけるかというところで、満日コミュニティ協議会、満日地区町
内会、民生・児童委員、社会福祉協議会と秋葉区自治協議会と一緒に話し合いを繰り返
してまいりました。そこから出てきた案として、全戸アンケートというものを実施して、
どういうものにニーズが傾いているのかという実態を明らかにしていったという、1 年
間の活動になっています。これをもとに、具体的な施策というものに取り組んでいき
たいと考えているところです。

第3部会です。第3部会は、教育・文化・スポーツ等を担当する部会です。今年度は、東京オリンピックで女子のラグビーの代表選手に原わか花さんという方が選出されまして、原さんを応援するのぼり旗を新津ラグビースクールとともに作成して設置させていただきました。

それからもう1点、秋葉区の魅力をどうすれば秋葉区民に伝えることができるかということで、従来「あきはこども大学」というものに取り組んでいたのですが、大人のほうが秋葉区の魅力をよく分かっていないのではないかとこのころに着目しまして、今年度は「あきはおとな大学」というものを企画しました。メニューとしては非常に魅力的な秋葉のガラス細工づくり体験とJR新津保線区の見学という、非常にレアで魅力的な機会を企画してできるかと思ったところ、コロナの波がやってまいりまして、残念ながら延期となっていたところです。この辺は、必ず、年度を超えても実施したいと思っております。

それからもう1つ、広報部会というものも私からご紹介させていただきますが、今ご覧いただいている「あきはくはつものがたり」というかわら版、そして同名のラジオ番組を部会委員が編集して秋葉区の皆様にお届けしているという活動をさせていただき、特にラジオ版「あきはくはつものがたり」は、この自治協議会委員が代わるがわる、総動員でゲストトークをさせていただいているという、我々の活動の舞台ともさせていただいております。

では、もう1つ、ひな・お宝巡り部会、こちらも特別部会として今年取り組んだものですが、こちらは大貫副会長からご報告させていただきます。

(大貫委員)

ひな・お宝巡り部会を私から報告させていただきます。

目的は、秋葉区全域で「ひな・お宝巡り」を実施することで各コミュニティ協議会や商店街の活性化を図っていきましようということで、区内の方だけではなく区外の方からも足を運んでいただいて、秋葉区全体の新春の行事として育てていきたいということで始めました。事業の概要としましては、秋葉区全体のイベントとなるように、区民誰もが気軽に参加できるようにということで取り組んでまいりました。7期の委員が中央コミュニティ協議会で折り紙を使って作って吊るした吊るし飾りがとても好評だったということで、ぜひこれを継続してほしいという思いを残していかれました。また、新たに中央コミュニティ協議会で担当委員となってくださった方がとても熱の入った方で、その方の心に皆が本当に動かされて、チームワークよく活動することができました。事業の評価としましては、保育園とか幼稚園、小中学校、商店の方、高齢者の施設、これ

はコロナ禍で開催できなかった茶の間の参加者の方たちの力も借りて、折り紙を作っていただいて吊るし飾りを作って製作しました。右下の写真は、4人の女性が折り紙を折っています。これは、私が運営している「だんだん・嶋岡」という茶の間なのですが、折り紙を教えてくださいということで阿賀浦コミュニティ協議会の方が足を運んでくださって、自分たちの吊るし飾りを仕上げたという写真です。子どもさんだけではなく、高齢者の方も中学生の方も、本当にいろいろな方が参加してくださいました。

この委員の構成に1号委員を入れましょうと、会長のアドバイスがありました。それが本当に功を成して、コミュニティ協議会同士のつながりができたと思います。昨日、すべての会場を見終えてきました。21日までですが、実際に会場に行くと本当に素晴らしくて感動します。ぜひお時間があつたら足を運んでいただきたいと思いますし、当初の展示予定が、コロナのまん延防止のために公共施設が臨時休館することになったのです。その解除を願うと同時に、この変化に対応するときに事務局に大変ご負担をかけることになってしまいました。ですが、年度末の繁忙期にもかかわらずいねいに対応してくださって、今日この机上にありますチラシを作ってください、地域の住民の方たちにていねいに説明させていただいて、今、好評で開催することができています。今日おいでの新潟日報やFMにいつ、あとは読売新聞でしょうか、取り上げていただいて、いろいろな方たちの力を借りて行うことができ、とてもよかったと思っております。そのようなことで、来年にもつながる活動に育っていくことを、皆で大切に育てていきたいと思って、また来年に向けて計画していきたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございました。それでは、ここから委員の皆さんにも加わっていただき、市長との意見交換とさせていただきたいと思いますが、まずは市長、今、私どもの活動を聞いていただいて、率直なご感想、ご意見、その辺の一言から入っていければと思っておりますが、お願いできますでしょうか。

(中原市長)

ありがとうございました。今ほど会長、副会長から、幸福度調査部会の意識調査、そして第1、第2、第3部会のご報告、副会長からひな・お宝巡り部会ということで、いろいろご紹介、ご報告いただきました。大変ありがとうございました。大変盛沢山の活動をやっていただいてありがたいと思いましたが、素晴らしい活動を皆さんにやっていただいていると思ったところでもあります。

その中で1つ、最後に会長が言われた子どもたちも幸福には感じているのだけれども、地元への意識がというようなお話が最後にありました。そうしたことから、新潟市とい

たしましては、これまでもやってきているのですけれども、「食と農のわくわくSDGs学習」ということで、令和4年度から新規事業で、これまで例えば南区のアグリパークで農業体験学習プログラムなどをやってきたのですけれども、さらに子どもたちから食と農にかかわるさまざまな取組みを、学習をして、農業や食への理解を進めていきたいと考えております。そのことによって地元の食や農を学ぶ機会にもなりますし、また持続可能な農業に貢献する人材育成にもつなげていきたいと思っております。そうした学習を通じて改めて地域を見つめ、地域への愛着を育んでいく取組みにもつなげていきたいと考えているところです。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、時間も限られていますので、ぜひ委員の皆様から何かお声を出していただければと思います。何か市長にご意見であるとか、ご質問がある方は挙手してご発言をお願いします。

(青木委員)

金津コミュニティ協議会の青木と申します。市長、今日はお忙しいところ、大変ご苦労さまでございます。せっかくの機会でございますので、私からお礼やお願いということで3点ほどお聞きしたいと思っております。

まず、金津コミュニティ協議会管内で、昨年から地域の課題ということで、朝日地内で原油が自噴しているということ。それから、イノシシの関係とかそのような関係で、去年からいろいろとお話ししていたのですけれども、おかげさまで朝日の原油の自噴につきましては、市長自ら経済産業省に働きかけをしていただいたり、あるいは秋葉区区民生活課、産業振興課、建設課の方にご苦勞していただいたりしまして、幸い油の出る量が少なくなったということで、今現在被害は発生しておりません。そのような関係で非常に喜んでおります。ただ、一昨日の地震によりまして、また地殻変動でどうなるか分かりませんが、出たら1つよろしくお願ひしたいということです。

それから、クマ・イノシシの関係でございますけれども、今年2月4日に、南魚沼市内で小学校の女の子がイノシシに襲われるという、こういう事案が発生しました。つい先ほど金子会長からもお話がありましたように、自治協議会の事業の一環といたしまして、このイノシシから区民を守るということをやっております、こういう携帯用のパンフレット、これを実は3万部作りました。そして秋葉区内の子どもたちに配るということで、現在秋葉区内で12の小学校、6つの中学校、それから幼稚園が7つということで、合計5,948名の園児・児童に、これは教育支援センターの方から絶大なるご協力をいただきまして配布が終わりました。その関係で怪我のないように祈っておりますけ

れども、そのようなものが1つ。今現在、金津地内で親子のイノシシがまだ4頭徘徊しているのです。捕獲するには場所が場所ということで大変なのですけれども、区民生活課の方にご苦勞していただいております。今現在、ここは一応ないのですけれども、まだ現場付近では約40から50センチの雪があるのです。そのようなことで、建設課の片岡係長、名前を出して悪かったのですが、お願いして相談しましたら、分かりましたということで素晴らしく早目の対応をしていただきまして、本来のイノシシ退治に頑張っていると、そのような関係で、特に建設課の方の区民の目線に応じた素早い対応ということで、地域の人も喜んでおりますし、また皆さんと一緒に頑張っていけると、そのように感じております。

最後、お願いなのですが、先ほど金子会長から、自治協議会委員の立場として話という面倒な注文を受けたのですが、先ほど市長から令和4年度、課題の山積する新潟市の取組みをお聞きしました。そこで、ぜひ市長から、11月18日以降もこの課題の山積する新潟市のために頑張ってくださいと、そういうお願いでございます。以上でございます。

(金子会長)

ありがとうございます。市長、何かお返事はございますでしょうか。

(中原市長)

ありがとうございました。いろいろいくつかご指摘をいただきまして、大変ありがとうございました。まず、油の湧出につきましては、特に秋葉区の皆様に大変ご心配をいたしております。秋葉区で懸命にこの油の湧出について対応させていただいているところでもありますけれども、これまでも抜本的な原因調査ということに取り掛かることができませんでしたけれども、今年、経済産業省に要望に行きまわってまいりまして、少しその取っ掛かりができたというような状況であります。もうしばらく小規模な調査を続けながら、その要因を明確にし、そして対応ができるような流れになればいいなと今考えているところであります。引き続き担当が一生懸命やっておりますので、私もしっかり国に、専門家でないとなかなか原因分析ができませんので、そうした国の力も借りながら、一緒になって油の湧出を食い止められるように取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きご理解をよろしくお願ひします。

それから、これ、いいですね。非常に分かりやすく、感心させられました。やはり子どもだけではなくて、大人の皆さんもこういうものを一目見たり、また持ったりしていることは大変いいことなのかなと思います。秋葉区のみならず、最近では西区にも出ました。西蒲区も西区も出ますし、江南区も出るそうですし、どこでもイノシシが出て、

やはり怖いですね。こういう対応をよく事前に理解しておくということは大事だと思っておりますので、ほかの区においても参考にさせていただければと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、ほかの委員、いかがでしょうか。

(渡邊委員)

委員の渡邊と申します。

お話しいただいた資料の 17 ページ、18 ページに該当するかと思うのですが、切れ目のない支援ということでいきますと、子どもの年齢は 18 歳までということになると思います。その場合なのですが、下のほうに作っていただきました「教育環境」とお示しいただいているのですが、実際に子どもが育つというのは家庭も含め地域もありますので、教育の部分だけではなくて、育ち、あるいは学習環境の整備という点で見たときに、秋葉区には児童館がありません。お金がないから仕方ないのかなとは思っています。その際に、NPOもしているもので、私どもの団体で、ボランティアで始めようかという話を少ししています。ただ、ボランティアだけでは継続的に回していくことはできませんので、この切れ目のない支援というものが周産期から 2 歳児とか周産期から小学 2 年生までという子育て支援の範囲内で終わるのではなく、子どもが 18 歳になるまでの切れ目のない支援ということで、何らかの手立てをお願いしたいと思っております。

(中原市長)

ご意見ありがとうございました。私が間違っていたらお許しいただきたいのですが、ここで使っている「切れ目ない」という意味は、結婚・出産・子育て期の、そこまでの切れ目ない支援と、この三つの概念と言いますか、それをつなぐ切れ目ない支援と私自身は認識しております。今お話しいただいた点について、区長から少し答えさせていただきますので、よろしく申し上げます。

(区 長)

児童館のお話し、具体的にその名前が出ましたので、ここでまた確認を含めてお答えしますが、この度、この隣の新津健康センターのところに、子育て支援センターの「育ちの森」が新しく改修移転で 4 月からオープンいたします。そこで対象の年齢を少し拡大して利用できるよということ条等を変更していますので、例えば上のお子さんで小学校低学年の子どもとか、一緒に遊べるような環境が整ってきましたので、そのようなものも拡大に当たるかなと思っています。

また、秋葉区においては、里山において外で遊べるような環境づくりをずっと進めてきていますので、そのような特徴づけたものも含めて、全市的にどこの区の児童館も皆

さんが利用可能だという面もございますので、そのようなところで複合的に子育てを進めていただければということを感じております。よろしくお願いいたします。

(渡邊委員)

ありがとうございます。子育て支援が小学年生まで利用できるのは、大変前進したと思っております。ただし、例えば暮らしている者としては、小学2年生の子ども、小学5年生の子どもがいた場合、一緒に行くことはできません。児童館であれば18歳までですから、皆を連れて行くことができます。ほかの現状としまして、今日の午前中、お子さんが0歳から10歳までいらっしゃる方々と一緒におりました。子どもたちをどこに連れて行きますかと一番に出てきたのは、五泉のラポルテです。次にマリンピア、味方の児童館に行くというお子さんもいらっしゃいました。全部車です。車で行かなければいけないということは、子どもが自立して自分で行けないということです。この子どもたちが10年後、20年後になったときに、自分で遊びに行けるという体験がないということなのです。というところをお伝えしたかったです。

(金子会長)

そうですね。どのように切れ目のない支援が実現できるか、本当にこれは行政だけの問題ではないと思いますけれども、市民、NPO、地域が一緒になってその辺のところを充実させていかなければならない課題かと思えます。ありがとうございました。

では、ほかの方、いかがでしょうか。

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口と申します。よろしくお願いいたします。

こちらのPRの内容で、少し簡単に、私自身が理解していないので教えてほしいのですが、今年度の予算が少し増えていると思うのですけれども、市の方とか県の方に聞きますと、人口減少がどんどん出ていますよねということで、これから箱物とかそういうものはどんどんなくなるということなのですけれども、市の予算とか県の予算、どんどん上がっていくのですが、その財源というのはきちんと確保されているのでしょうかというようなことが少し気になったものですから、それが1つ。

それから、今回「にいがた2km」に関する取組みを、今日の新聞にも出ていましたけれども、非常にいいのではないかと思います。私ども秋葉区から古町の方に行くときに、そこが通ればすごくいいのではないかと思います。あれは一般車道も新潟駅の下のところを通れるようになるわけでしょうか。それが気になったことでありまして、それが1つです。

それからもう1つあるのですが、実は、私ども自治協議会と違うのですが、自治会で、

いろいろな災害が秋葉区とか新潟市、前の大震災はありましたけれどもあまりなかったものですから、災害が少ないというアンケートから住みよいところだということは分かっているのですが、その反面、困った人の助け合いとか、そういうものが足りないとか、それから防災の話し合いを行っている人も少ないというようなことがあって、そうすれば防災に対する何かあるのかなと考えたときに、新潟県の防災ナビというものは携帯で見られるのですね。そのときに、この使い方を見ると、県がそれを作っているわけではなくて、それぞれのアプリに飛べるようになっていて、詳細についてはそちらに聞いてくださいみたいなことがあるのです。例えば、そうしたら秋葉区でも新潟市でもいいのだけれども、そちらでもそういうものを行っているのかなと気になって調べようと思ったのですが、そういうものは、多分秋葉区も新潟市も、防災に対する安否確認とか、そういうものについての何か仕組みみたいなもの、そういうものはないのかなと思ったものですから、もしあったらお聞かせいただければと思います、質問です。

(金子会長)

ありがとうございます。新潟駅高架の下は通れるかというポイントと、防災ナビ的な、そういうサービスに新潟市では取り組んでおられるかという、その2点ですね。お願いできますでしょうか。

(中原市長)

ありがとうございます。坂口さんから3点でしょうか、ご質問をいただきました。私から答えさせていただいて、足りないところは担当から補足していただきたいと思えます。

まず、現在の新潟駅の万代口にバスのターミナルがありますけれども、そのバスターミナルは、新しい駅舎が高架化した後に、駅のちょうど真下、今は万代口から駅に向かって右側にありますけれども、今度は左側に移転します。その真下に、市民の皆さん、誤解をされている方、正確にご認識していただいているのが実情ではないかと思っています。そこは道路ができるわけではなくて、バス停ができるのです。ですから、残念ながら一般の車両が通行できるようなスペースはないということ、皆さんにご承知いただければと思っております。そのほか、駅の橋上化によりまして、今までは線路が地上にありましたので、行き来には踏切があつて、あるいは信号機などがあつたと思えますけれども、今度はそういうものが不要になりますので、新潟市の計画としては、その下に、駅の橋上化の後に3本、まず、新潟・鳥屋野線というものがすでに八千代橋から駅南の方にかけて1本完成して新しい道路ができておりますけれども、それに加えて3本計画があります。ただし、駅周辺にいろいろな構造物が大変たくさんあ

りますので、この3本を通すまでにはかなり時間がかかるということで、皆さんからご理解いただきたいと思っております。

それから、2つ目の予算の話ですけれども、これまで合併建設計画という大変大きな新潟市の課題がありまして、それを行いながら市の財政をやり繰りするということでしたけれども、これを行うにあたっては、基金を取り崩さなければならないような状況であったのだろうと私は考えております。基金を取り崩しながら合併建設計画を促進しながら、さまざまな行政サービス、また投資を行ってきたということになるかと思っております。私が就任する1年前から、歳入と歳出はぴったり一致すると、収支均衡するような予算になっております。基金がありませんので、基金を取り崩すことができませんが、今、収支均衡した予算を5年間組んできております。そうした中で、投資的経費の厳選とともに縮減を図りながら今後対応させていただくということでご理解いただきたいと考えております。

災害については区から回答します。

(区 長)

防災に関するアプリのご質問がございました。新潟県の防災ナビは県全体のものでございますけれども、新潟市においては、ひらがなで「にいがた防災アプリ」というものがまたございます。キャラクターとしましては、ジージョとキョージョという赤と青のキャラクターです。「にいがた防災アプリ」は、位置情報をもとにしまして、このエリアであればどこに避難所があってというようなことや、各災害のハザードマップがそこで参照できるものがございますので、こちらもぜひダウンロードしてご覧いただきたいと思っております。

失礼しました。「にいがた防災メール」をご案内したいと思っております。先ほどのアプリは、私、ダウンロードしていたのですが、今後は配信終了になるという、発展的に廃止されたようでございます。ですので、「にいがた防災メール」をお話ししたいと思っておりますが、先日の地震のときのような場合に、いち早く登録者宛に情報が入ってまいりますので、それをぜひ登録していただきたいと思っております。それは、お住まいの場所だけでなく、例えばご実家がある場所とか、勤務先がある場所などの防災情報も配信されます。よろしくお願いたします。

(金子会長)

ありがとうございました。

(坂口委員)

ありがとうございました。1つ、私、聞きたかったのですが、防災メールというもの

があるというのは分かりました。そのメールの活用なのですから、一方的な情報のメールになるわけですか。それから、もう1つは、私が活用したいと思っているのは、安否確認みたいなものがほしいと思っていたのです。そういうものについてはいかがでしょうか。

(区 長)

このメールについては、こちら側からの配信のみでございます。個別の安否確認の集約ができるようなところまでは、今はいっておりません。

(坂口委員)

ありがとうございました。

(中原市長)

会長、いいですか。災害につきましては、今、大事な点をご質問いただいたと考えております。災害につきましては、現在新潟市は災害計画に基づいた対応をやってはいますけれども、これで完全だとは思っておりません。さらに皆様からの今いただいたようなご意見などを踏まえて、どんどん対応を高めていく必要があると考えておりますので、さまざま地域の実情は違うと思いますし、また新潟市としましても、避難行動要支援者の支援制度などもやっておりますけれども、今後とも充実に努めていきたいと思っております。

(金子会長)

では、中原市長、本当にまだたくさんお話をしたいところではございますが、時間ですので、また次の機会を楽しみにしたいと思います。本日は、本当にお越しいただきましてありがとうございました。皆さん、拍手で感謝を表したいと思います。どうもありがとうございました。

(3) 秋葉区自治協議会委員の推薦について

(金子会長)

それでは、議事を再開させていただきます。

次第の3番となります。「秋葉区自治協議会委員の推薦について」です。推薦委員会の田中座長、お願いいたします。

(田中委員)

秋葉区の自治協議会委員の推薦ということでございます。座長の田中です。よろしく申し上げます。

2月6日から28日までを期間としまして募集した1名の公募委員についてですが、

3名の方から応募をいただきました。3月10日に第4回の委員推薦会議を開きまして、提出されました作文と活動歴を厳正に評価した結果、五十嵐さんを推薦させていただきたいと思います。ご審議くださいますよう、お願いいたします。

また、この度、社会福祉協議会の高橋委員と支え合いのしくみづくり会議の生活支援コーディネーターを担当しています白井委員が4月1日付で異動するという事になったということで、本日第5回の委員推薦会議を開催いたしました。後任の委員の選考を行いましたので、その報告をいたします。高橋委員の後任といたしまして坂井さん、それから白井委員の後任といたしまして市橋さんを推薦させていただきました。お手元に推薦の名簿がございますので、そちらと照らし合わせてご覧ください。委員の推薦会議におきまして、自治協議会条例並びに運営指針に基づきまして審議をいたしました。お二人とも条例並びに運営指針を満たしているということから、委員の候補者として決定いたしました。推薦会議の運営要項第8条第1項に基づきまして、推薦会議の議決をもって市長へ推薦させていただきます。なお、後任の委員の任期ですけれども、前任委員の残った任期となりますので、令和4年4月1日から令和5年3月31日まで、部会については、前任の委員から引き継いでいただきます。坂井さんは第2部会、市橋さんは第1部会に所属していただきます。

最後に、小柴委員が所属されている「新津さつき農業協同組合」についてですが、4月1日に「新潟かがやき農業協同組合」ということで名称が変わりましたので、併せてご報告をいたします。

(金子会長)

田中委員、ありがとうございます。ただいまの件につきまして、ご質問等はございますでしょうか。挙手のうえご発言をお願いします。特にございませんか。

名簿の下から5番目ですね。五十嵐さん、こちらの方を推薦させていただきたいということですが、ご提案どおりでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

異議ございませんか。ありがとうございます。

(田中委員)

なお、女性の割合が44.8パーセントということで、自治協議会の中でも女性の比率が高くなったかなと思っております。

(金子会長)

では、五十嵐さんをご推薦させていただくということで決定いたしました。ありがとうございます。

以上で、次第の3番「秋葉区自治協議会委員の推薦について」を終わらせていただきます。

(4) 次期「秋葉区区ビジョンまちづくり計画」基本方針について

(金子会長)

続きまして、次第の4番「次期『秋葉区区ビジョンまちづくり計画』基本方針について」、古侯副区長からご説明をお願いいたします。

(副区長)

お疲れさまです。区ビジョンまちづくり計画の基本方針案について、私から説明させていただきます。

皆様のお手元には、資料No.4と右肩に書かれた資料をご用意ください。表紙をご覧くださいながら説明を進めさせていただきます。すでにご案内のとおり、現在各区では、令和5年度を初年度とする次期「区ビジョンまちづくり計画」の策定を進めております。秋葉区の計画策定にあたりましては、自治協議会委員の皆様から実施していただいた「秋葉区暮らしやすさに関する意識調査」について、今ほど会長から貴重な提言書などもいただいたところがございます。また、昨年12月には、新津まちづくり会議や秋葉区みらい会議の皆様から、秋葉区のまちづくりやエネルギー施策に対する提言書をちょうだいし、同日に開かれたワークショップでは、皆様から大変熱の入った議論を交わしていただきました。区自治協議会の皆様はじめ、多くの皆様から秋葉区の今後の課題や将来に向けた方向性について貴重なご意見をちょうだいすることができまして、この場をお借りして感謝を申し上げる次第です。

それでは、お手元の資料4なのですけれども、令和5年から始まる次期「区ビジョンまちづくり計画」の基本方針の現在の素案です。現行の「区ビジョンまちづくり計画」の基本方針を踏襲しつつ、これまでにちょうだいしたご意見やご提言を事務局で参照しながら、秋葉区の10年後、20年後を見据えながら作成させていただきました。

まず、区の将来像について、表紙に3つの案を記載させていただいています。案①は「里山と水に囲まれて花と緑あふれる笑顔咲きそろうまち」、案②は「笑顔が似合うにぎわいのある花と緑と石油の里」、案③は「花と緑あふれにぎわいのある里山のまち」と、3つ案を書かせていただきました。なお、今後も策定作業を進める予定としておりますので、後程ご案内もいたしますが、皆様からご意見をいただく予定としておりますので、もちろん案④を委員の皆様からご意見としてちょうだいしても差し支えないものでございます。また、その下に写真として示しておりますのは、仮置きのものでございま

す。

それでは、表紙をめくっていただいて2ページをご覧ください。区の特徴、区の概要を記載したページです。こちらは、秋葉区のプロフィールを記述しておりますので、事務局サイドで関係課と作業を行って、熟度を上げていく予定としております。

次のページをご覧ください。一番上、区の将来像として、とりあえず先ほどの案①の文章を掲載させていただきました。その下が、目指す区のすがたとなります。この3ページから次の最後の4ページにかけて、四つのすがたを記述しております。これまでの区ビジョンでは5つのすがたを記述していたのですが、ご覧の4つに整理させていただきます。

3ページにございます目指す区のすがたの1つ目ですが、「環境に配慮したうるおいとやすらぎのあるまち」です。8区の中で秋葉区の里山は、秋葉区だけでなく新潟市の個性を演出する特性の1つであり、大切な宝物であります。また、秋葉区は、三方を川で囲まれ、中央を能代川、新津川が流れ、雁巻緑地や新津川遊歩道などの親水空間が整備された水辺のまちでもあります。こうした里山や水辺は豊かな自然環境を創出しております。そこに暮らす私たち秋葉区民は、今、これから求められる脱炭素社会を目指していくというこの潮流の中で、こうした自然との調和を図りつつ、暮らしや交流などに役立てていく必要があるのではないかと考えております。緑の里山と水辺に囲まれた秋葉区において、エネルギーと脱炭素に向けた課題を前向きに捉えていきまして、克服に向けた歩みを進めていくことが有意義なことではないかと考えており、そこに記載の3つのことについて記載しております。後ほどご覧いただき、ご意見をいただきたいと思います。

その右側、2つ目のすがたですが、「楽しく元気なまちなかやさしさのあるまち」では、さまざまな団体との連携、協働によるまちづくりと、安心・安全で地域とともに助け合い支え合うまちづくりや、地域と一体となった次世代を育むまちづくりを目指すこととしております。

ページをめくっていただきまして3つ目でございますが、「歴史と個性を活かすまち」でございます。秋葉区がもつさまざまな文化や歴史を積極的に内外へ発信し、交流のあるまちを目指すことや、スポーツ活動の振興に努め心身ともに健全に過ごせるまちを目指すこととしております。

最後の4つ目、「育て・生み出し・活かすまち」では、これまであった秋葉区特有の地域資源を活かし、さらに新しいものを生み出し発信していくことや、秋葉区民がさまざまな分野でデジタル化によるメリットを享受できるまちを目指すことを記述しており

ます。

これら4つの基本方針に対応する方向性やさまざまな施策の案につきまして、今後さらに事務局で作り込んでいきまして、またこのような機会にお示ししたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

ただいまご説明した資料のほかに、もう1つホチキス留めの資料がございます。表題が「次期秋葉区区ビジョン基本方針素案意見調書」でございます。こちら、期限がなかなか厳しい設定となっておりますが、今ご覧いただいた素案についてご意見を記載していただくフォーマットとなっておりますので、こちらをお持ち帰りいただいて、ご意見をお寄せいただければと思います。3月24日が期限となっておりますが、恐れ入りますけれども、紙ないし電子データなどを準備しておりますので、電子データにつきましては、資料配布を電子データで受け取られている委員の皆様には電子データでも送付させていただこうと思っておりますので、よろしく申し上げます。次回の3月25日の自治協議会で集約したものを皆様にご覧いただいて、意見聴取ということでさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。私からの説明は、以上です。

(金子会長)

古俣副区長、ありがとうございます。それでは、ここで皆様からご意見、ご質問をちょうだいしたいと思います。挙手のうえご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。

素案を書くにあたって、分からないので教えていただきたいのですが、区ビジョンというのは、主語は書いたほうがよろしいものなのではないでしょうか。というのは、例えばなのですけれども、この資料をいただいたものの秋葉区の区ビジョン基本方針の3ページを見ていただくと、右側の「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち」の1つ目の丸については「産学官、地域が連携した」ということで主語がある程度絞ってあるわけですが、それ以外の、例えば四番目には主語がなくて、「特色を活かしながら、地域と一体となった」というところなので、誰がというものがあまり具体的にはなっていない感じがあるのですが。

(金子会長)

特に断っていない場合の主語というのは誰なのではないかということですよ。

(渡邊委員)

そうなのです。

(副区長)

ご質問ありがとうございます。この方針に沿って実施する取組みというものが解決方法として出てくるわけですが、その実施主体であるとか、あるいは問題意識、課題意識をもつ主体が誰なのかとか、その内容によって主語というものは変わってくると思います。また、もう1つは、自治基本条例にもございますように、あくまでも我々の目指している地方自治というのは、新潟市だけがするものではなくて、市民の皆様とも協働で展開していくのが我々新潟市の地方自治だという理念も掲げられておりますので、答えになっていない答えなのではございますけれども、それぞれの内容に応じて主語が変わる可能性があるということはお含みいただきたいと思います。

ですので、例えば渡邊委員が紹介された4つ目の項目、「秋葉区の特色を活かしながら、地域と一体となった魅力ある子育て・教育環境により、次世代を育むまち」というのは、必ずしも行政だけが実施するものではない。解決方法を遂行するためには、行政としても、多くの主体から協力をいただきながら展開していかなければ、本当に子育てに役立つ仕組みがつくれるかどうかというあたりになってくると思いますので、そのように、少し冗長性のある主語なのだなと捉えていただけるとありがたいです。

(渡邊委員)

ありがとうございます。ちなみにそれを聞いたのは、実際にこれを政策に落としたときには、目標とその評価につながってくると思われましたので、具体的に書いたほうがいいのかなと思ったもので、ありがとうございます。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。

今日は宿題がたくさんありますけれども、ぜひ3月24日(木)の正午までということですので。秋葉区のここ何年間のビジョンに関する重要な意見を、機会をいただいているということですので、ぜひとも皆様、意見聴取を書いてお送りいただければと思います。基本方針についても、案④というものもありだという説明でしたので、もし何かいいものが下りてきたら書いてみてもいいのかなと思います。

特にございませんか。ないようでしたら、また後ほど、しっかり読んでいただき、意見聴取もご活用いただくということで、次第の4番はこれで終了とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(5) その他

部会活動報告

(金子会長)

それでは、次第の5番「その他」入ります。各部会から活動のご報告をいただきます。第1部会、第2部会、第3部会、広報部会、幸福度調査部会、ひな・お宝巡り部会の順番でご報告をいただき、ひと回りしたところで皆様からご意見、ご質問をちょうだいしたいと思います。

では、第1部会の渡邊副部長からよろしいですか。

(渡邊委員)

先ほど、金子会長からもけっこう具体的にお話しいただきました「あきはくはつものがたり」の秋葉区自治協議会部会活動報告ということで、4つの事業が滞りなく進みました。特に私は「アキハフジンロックフェスティバル」のダイジェスト版を見せていただきましたが、オンラインではありましたが、子育て家庭の方々とやり取りをしながら、最後はリアルでの開催もあったということで、ご報告を受けております。

(金子会長)

ありがとうございます。来週ご報告がありますよね。各プロジェクトの代表の方よりご報告をいただく予定となっておりますので、楽しみにしていただければと思います。

では、第2部会の蓮沼部長、お願いします。

(蓮沼委員)

第2部会の蓮沼です。

1月、2月ということで、当部会もできなかったのですが、第2部会は満日地区における生活交通支援を進めておりました。12月末に全戸に対してアンケートを実施しようということで、12月末に満日地区にアンケートをお渡しし、1月31日、実際は2月に少し入ったのですが、全戸からのアンケートが回収できました。やはり、地域の人は生活交通に対する意識が非常に高いのだなということで、回収率が77パーセントという非常に高い回答でした。その中を見ましても、やはり生活交通で困っているという方が約3割、将来免許の返納などを考えると困るという方を含めると50パーセントを超える方が悩んでいるという実態があるということが見えました。また、中身を見ますと、少子高齢化が進んでいるというのはどこの地域でもそうなのですが、70歳を超える1人暮らし、2人暮らしの世帯が非常に多いという地域でありますし、60歳を超える世帯で言えば、もう半数以上がそういう世帯になっているという状況から、やはり1人暮らし、2人暮らしで高齢化が進めば、車も運転できない、公共交通もないとなると、通院とか日々の買物が非常に不安だという声が非常に強いということが見えましたので、3月14日(月)にその結果をもって満日地区の方々と話し合いを進めま

した。

このアンケートをもとにどのようなことから支援していくのかということ、まず各満日地区の地域で考えてみようと。どれがいいのか、茶の間の送迎なのか、買物なのかとか、そういうものを考えていきましょう。それから私からも、このアンケートは、数値だけの分析、円グラフとか棒グラフだけではなくて、フローで書いてみようかなと思うのです。生活交通に困っている、何にということ、買物に困っているグループ、通院に困っているグループ、通勤・通学に困っているグループ、ではそれは買物だったらなぜ困っているのというような、車がないとか、タクシーが高いからとか、そういうグループでフローチャートにまとめて、ではどうするのかというものを、またなぜなぜと、それからではどうすると繰り返した対策のフローチャートを作ってみようと思います。それをもって、5月連休明けに地域の人たちともう1度話し合っ、来年度、できれば何か1つでも2つでも実行していきたいという14日の結論に終わっています。

(金子会長)

ありがとうございます。続きまして、第3部会の花水部会長、お願いします。

(花水委員)

第3部会の花水です。

「あきはくはつものがたり」に出ているとおり、第3部会は「おとな大学」をようやく明日実行できるという段階でまん延防止が入ってしまいましたので、結局延期という形になりました。延期か中止かということだったのですが、せつかく1年をかけて試行錯誤というか、いろいろな感染防止を考えながら皆さんで計画したことなので、これはやはり延期にしようということで、これから部会がありますけれども、来年度、これをまず優先的に行ってから、皆さんの事業評価を考えて「おとな大学」の行き先を決めていきたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、広報部会の加納部会長、お願いします。

(加納委員)

広報部会は、かわら版29号、先ほど金子会長から詳しい説明もございましたし、お手元に現物がございますので、私が敢えてここで話しすることはないかと思っております。ただ、ラジオ版のFM新津の「あきはくはつものがたり」、これは委員の皆さんに順次出演いただきまして、広報活動、大変ありがとうございました。来期も引き続きご協力をお願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。

続いて、幸福度調査部会なのですが、先ほど詳しくお話しさせていただきましたので、それでご報告と代えさせていただきたいと思います。来週の本会議で提言書の採択を目指しておりますので、重ねてご協力をよろしくお願い申し上げます。

では、最後にひな・お宝巡り部会の飯村部会長、お願いします。

(飯村委員)

ひな・お宝巡り部会からご報告させていただきます。先ほど、大貫副会長からもかなり詳しいお話をさせていただきましたので、まず、これはぱっと見ていただくのがとてもきれいなと思ひまして、ちょうどお手元にあります「あきはくはつものがたり」の見開きの右側のページをじっくり見ていただければと思います。これまでの秋葉区の歴史でもあったというところで、さらに非常にバージョンアップしたようなかっこうになりましたと私も感じておりますし、部会の方々、すごくエネルギーに、この間でまん延防止なども出てしまったりして不自由な活動になってしまったところではあったのですが、熱い思いが届きまして、本当に部会の方々にもご苦勞があったと思うのですが、何とかここまで漕ぎつけました。

お手元にもう1つ、赤いパンフレットがいつているかと思ひます。最初は2月1日から3月6日の開催ということでしたが、これは皆様のお力のおかげで、会期延長になりまして、4月に入ってもまだ見られるということでございます。途中で写真を一緒に撮ってくれるような場所もありましてとても記念になるスタイルになっているかと思ひますので、よかったですぜひ足をお運びください。

また、今回は、新潟薬科大学も初めて参加させていただきました。人々の健康と繁栄をということの願いを込めてこのお雛様を作るというようなこともあったようですので、新潟薬科大学も合格祈願と一緒にさせていただきながら作りましたのでよろしかったら、大学ではもう来週すぐに終わってしまうかもしれませんが、この休みの間は飾っているのではないかと思ひますので、よろしければウィンドウ越しに見ていただければと思ひます。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、これですべての部会からご報告をいただきましたので、ご意見、ご質問等があればお願いしたいと思います。皆様、いかがでしょうか。

(長谷川(啓)委員)

広報紙の最後のページの4コマ漫画を少しPRさせていただきたいと思ひます。もち麦を自治協議会で今年もしっかりPRしていこうということで、部会長がすごく推して

くださって、ここはご説明がなかったのもったいないと思ひまして、ダンサーの土田さん、今日は欠席していらっしやいますけれども、何とか彼を踊らせたいと思ひまして、皆で案を練ってこのようにしたいよねということで、事務局も一生懸命考えてくださって、部会のポロシャツを着て踊ってもらいました。ぜひ土田さんの真似をして、皆さん、もち麦を食べると恰好よくなるよくらいの、痩せるし、私も痩せました。以上です。痩せたい人は食べましょう。

(金子会長)

ありがとうございます。これまでにないテイストになっていますね。この4コマ。もち麦のダブル4コマということで、とてもいい出来ではないかと。ユリちゃんも一緒に踊っていますよね。

(長谷川(啓)委員)

ユリちゃんも躍っているのですよ。

(金子会長)

そして、ぜひ土田委員には、もち麦ダンスを作ってください。

(長谷川(啓)委員)

そうですね。ぜひ来年度。

(金子会長)

ダンスと抱き合わせでもち麦を広めていこうと。

(長谷川(啓)委員)

来年、私が提案したいと思ひます。

(金子会長)

ぜひ。来年の取組みが少し見えてきました。

ほかにいかがでしょうか。とくにございませつか。よろしいでしょうか。

それでは、部会からの報告は以上とさせていただきますと思ひます。

それでは、ご紹介が少しありまして、まず「しんせき夢マップ」について、長谷川隆委員からご紹介いただいてもよろしいですか。

(長谷川(隆)委員)

配布させていただきました「しんせき夢マップ」でございます。これは、実は改定版でございます、10年近く前に私がまとめをやって作ったものとほぼ近いのですが、それを、今、コミュニティ・スクールが始まります。もう始まっているところもあると思ひますが、その兼ね合いがあつてかどうか、学校で非常に協力的でして、校長が一生懸命になって、来ていただいて、子どもたちからお年寄りまで、一目で分かるような形

で作り変えましょうという話がございます、中を見ていただくと分かりますが、子どもたちのコメントもあちらこちらに入れてありまして、非常に分かりやすくなっております。最初に私が作ったときは、新関の歴史、それから著名人、名産とか、農村地帯ですから農家の名産品ですとか、それから神社等を入れて作ったのですが、今回はそれを省略した部分もありますし、写真なども入れ替えて今流に作ってあるようです。これを見ていただいて、ぜひ私どもの方にもお越しいただければありがたいと思いますし、地域では、やはり 10 年経ちますと中身も少し変わってきたり、あちらこちら変更があったり、そのようなことも出てくるということで、今回改正したということがございます。これをもとに、できれば多くの方においでいただいて、散策をしていただいて、ちょっとした賑わいができればいいのかなということでこれを作ったのですが、新関は秋葉丘陵とつながっていますので、一番向こう、小口まで行くわけですが、小口にも史跡がありますし、山をずっと歩きますと秋葉湖の方までつながっているわけですから、秋葉丘陵を散策するには非常にいいところですし、ぜひ私どもの方にもお越しいただければと思います。

今、新関地域ではこれを全家庭に配ってあるのですが、前は各コミュニティ協議会とか役所関係などにも全部配らせていただいたのですが、今回は、この改定版を作るにあたってなかなか予算がつかなかったということもあって、非常に部数が少なかったものですから、周りにはほとんど配っていない状況でございます。ですけれども、学校関係には配らせていただいて、皆さんに新関というところ、新関は3歩歩けば五泉市ですから、その一番はずれの地域で理解いただければいいなということでございます。

(金子会長)

長谷川委員、ありがとうございます。本当に情報が、さまざまな情報がぐっと詰まって、本当によく考えて作られた素晴らしいマップが完成いたしました。

(長谷川(隆)委員)

この地図の中に、写真も入っていますけれどもイチゴ園がありますでしょう。実はこのイチゴ園が、もう 10 数年から 15 年くらい前からの農家が始めたのですが、おかげさまで今は新潟市内から、1 時間かけて来る人がけっこういらっしゃるのです。だから、食べ物だけは、本当にあそこが美味しいと言えば、遠くても高くでも何してもあちらこちらから来るし、たまたま私も親戚が東京に何軒かあるものですから、そこに送ってやったら本当にこれは美味しいということで、毎年お金を送ってきて発送してもらっているところも何軒かございます。ちょっとしたことで地域の活性化につながるのだという気がしますよね。他の地域の皆さんも、もしこういうものがあれば、ぜひ PR してい

ただければと思います。

(金子会長)

子どもがイチゴを宣伝するのですか。すごいですね。新聞は、お子さんも意識が高いという話もここでさせていただきました。いかがですか。皆さんからご質問とか何かございませうか。よろしいですね。 それでは、長谷川委員、素敵なマップのご紹介をありがとうございました。

本日の議題、報告事項としては以上となりますが、閉会のごあいさつに行く前に、先ほどもご紹介がありました高橋委員と白井委員が来週はご出席になれないということで、本日、ごあいさつをいただければ幸いに存しますが、お願いしてもよろしいでしょうか。

(高橋委員)

秋葉区社会福祉協議会の高橋です。先ほどお話しいただいたとおり、この度の異動によりまして、4月から中央区の社会福祉協議会で勤務することになりました。秋葉区の自治協議会の委員の活動としましては1年間という大変短い期間ではありましたが、委員の皆様、秋葉区役所の皆様から助けていただき、またいろいろな情報をいただきながら、本当にお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。また中央区に行きましても、この自治協議会で学んだこと、得た知識を活かして、まちづくり、地域福祉の推進に進めていけるように取り組んでまいりたいと思っております。皆さん、本当にありがとうございました。

(白井委員)

先ほどご紹介いただきました委員の白井です。この度の人事異動で4月より南区の地域包括支援センター白根南に異動することに伴いまして、今年度限りで自治協議会の委員を交替させていただくことになりました。1年間を振り返ってみますと、秋葉区のため、秋葉区民の皆さんのために本当に活動できたのかということで、反省すべきところもあると自分では考えておりますけれども、限られた期間ではありましたが、ここでできた活動を胸に、これからの取組みに活かしていきたいと思っております。1年間という短い期間でしたけれども、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

(金子会長)

高橋委員、白井委員、本当に1年間秋葉区のためにご尽力いただき、楽しく活動をご一緒させていただきました。心より御礼申し上げます。新しいところに行かれましても、ぜひそちらで存分なご活躍をお祈りしております。本当にありがとうございました。

3 閉会

(金子会長)

では、閉会のごあいさつを野瀬山委員、お願いします。

(野瀬山委員)

皆さん、大変長時間ご苦労さまでした。第2部会の野瀬山です。ただいまコロナの関係ではないですけれども、雛、皆さんからも話が出ましたように、先ほど来から大貫副会長、また飯村部会長からも話がありましたけれども、私からも少しだけ、一言だけ話をさせていただきたいと思います。

ひな・お宝巡りはまん延防止法の適用で、ちょうど私どものひな・お宝の期間とダブってしまいましたけれども、事務局をはじめ皆さん方が大変でしたけれども、現在は見学者からも非常に喜んでもらっていますし、私たちも非常に連帯感を抱いたり、満足度を得たりということで、非常によかったと思っております。また、まだ会場に見えられていなかったら、ぜひ足を運んでいただきたいと思いますと考えております。

また、このコロナ禍の中で、何でも自粛、また延期、中止というようなことがコロナ対策だという傾向もありますけれども、私の私案ではありますけれども、対策をしっかりと実施して、できることは工夫して実施していったらいいのかなと強く感じました。以上です。

(金子会長)

野瀬山委員、ありがとうございました。では、進行を事務局にお返しします。